

issue+design、クロスモーダル技術を活用し
勉強の作業効率や継続意欲を高める新プロダクト

「WRITE MORE」を開発

「社会の課題に、市民の創造力を。」をテーマに、
地域が抱える課題をデザインの持つ美と共感の力で
解決するissue+designは、博報堂、高知県佐川町
との協働により、学習支援プロダクト「WRITE MORE」
を開発しましたのでお知らせいたします。

「WRITE MORE」とは、「勉強したくなる机」という
コンセプトで開発した学習支援プロダクトです。
人がものを書く際にペン先と紙が摩擦して生じる筆記音。
これを増幅して書き手に伝えることで、人の聴覚を刺激し、
人、特に子どもたちが文字や絵を描く際の継続意欲や
作業効率、学習への楽しさを高めていくことができます。



東京大学苗村研究室（苗村 健教授：JST CREST「局所性・指向性制御に基づく多人数調和型情報提示技術の構築と実践」研究代表）が開発した筆記音の強調フィードバックが筆記作業に与える効果に関する研究を博報堂研究開発局の協力のもと、このプロダクトに応用致しました。

URL:<http://issueplusdesign.jp/writemore/>

write more

かくをたのしむボード



Write More（ライト・モア）は、書くことが楽しくなるボードです。
アプリとセットで使うことで、カリカリ、ガリガリ、サラサラといった
書くときにでる音“筆記音”を大きくすることができます。
東京大学大学院の研究*によると、自分の筆記音を聞くことで、ひとは書くことに
夢中になり、美しい線や文字を速く書けるようになることがわかりました。
子どもたちに、書くことをもっと楽しんでほしい。
Write Moreは、そんな思いから生まれたプロダクトです。

| WRITE MORE 遊び方 |



1. ボードからでてくるコードをスマートフォンのイヤホンジャックに挿して、ボードのスイッチをONにします。(iPhoneと専用のアプリが必要です)
2. ボードの上に専用の練習帳、または好きな紙を置いて、鉛筆で線や文字を書くと筆記音が大きくなります。
3. アプリ画面で好きなボタンをタップすると、筆記音がいろいろな音に変化します。

| クロスモーダルとは |

揺れる風鈴を見てそこから出る音を聞くと、実際の温度は変わらなくても涼しく感じる場合があります。また、かき氷の赤色はイチゴ味、緑色はメロン味といったようにさまざまな味を楽しめますが、実は安いシロップでは、色が異なるだけで味の元になる材料は同じということをご存知でしょうか。

見た目の情報(視覚)で、味の体験(味覚)が変化します。

人は舌だけで味を感じているわけでも、肌だけで温度を感じているわけではありません。

モノを書くと言う「目(視覚)」と「手(触覚)」だけで行われていると思われがちな、文字を書くという体験に「耳で書く音を聞く」ことを加えることで、筆記体験が大きく変わります。

5つの感覚が互いに交わり、相互に作用しながら、感覚は生れています。このような感覚の仕組みがクロスモーダル(感覚間相互作用)と呼ばれ、得る感覚や体験そのものを自由に設計できるものづくりやサービスデザインに活かせるとして近年注目されています。

(引用：クロスモーダル設計調査分科会)

| クロスモーダル設計調査分科会とは |

東京大学他の研究者を中心に、大学や民間研究所の研究者、技術者が集い、人間の感覚がもつクロスモーダルな特性をインタフェース応用する技術の調査と体系化を中心として、新しい種類の五感技術の将来展望を議論するための会です。

| *東京大学大学院苗村研究室とは(公式ウェブサイトより) |

情報メディア・コンテンツ技術は、速くて便利なだけでなく、人々の心を豊かにする存在へと進化しつつあります。苗村研究室では、人間主体の情報技術パラダイムの開拓を進めてきました。研究では、ソフトウェア(信号処理・画像の認識と合成)とハードウェア(光学設計・センサ応用)の両者に基礎を置き、普遍的な理論体系を構築するとともに、システムを設計・実装していきます。さらに、その成果によってもたらされる人々の新たな「体験」を、心理実験を通じた評価やアート表現へと結びつけていきます。論文だけでなく、一般向けも含めた国内外でのデモ展示に力を入れています。

| お問い合わせ先 |

issue+design : 寛、岡本、小菅

TEL : 03-6441-7752 E-Mail : info@issueplusdesign.jp HP : <http://issueplusdesign.jp>